2015/08/17 インタビューメモ　三井真理子　先生　時間制限はない模様

☆音楽づくりの授業の話

音楽づくりの授業は行われている

授業の応用的なところで、単元が終わった後に少し取り入れられている

学年に応じてやることは違う

リズムづくり、拍子を繋げる、旋律を作る、和音を作るなど

このやり方はポピュラー

ピアノをやっていたり、音符が読めなかったりと、音楽に対する個人差が多いため、メインにはできない。

なお、見せられる作品はない

教科書の合奏や、合唱に時間を取られて、音楽づくりの時間がない。

年間トータルで、5時間～8時間

音楽の作り方は、教えるというより、子供から出させる。

こういう楽譜は、こういう音になると、教材の中から教える。

音楽づくり教育のやり方が分からない先生、また、音楽そのものがわからない先生もいる。

OKなのは2、普通が5、不得意なのが3

それを裏付けるアンケート結果などはない。アンケート用紙渡せば実施して頂けるらしい。

昔に比べれば、伴奏のCDもあるし恵まれてきている。

しかし、ICTが使いこなせなくて、難しいことがある。

先生もICTの研修を受けている。しかしそれを子供にやらせると分からなかったりもする。

☆ICT教育の話

算数ではデジタル教科書というICT教育が取り入れられている。

他にも、ものさしの㎜などを大画面で拡大すると分かりやすかったりする。

また、図形の単元で、反転、合同なども分かりやすくなる。

しかし、ICTを使わなくてもいい単元もある。計算とかはノートでやればいい等

なんでも使えばいいというわけではない。

国語でもICTが取り入れられている。しかし高い上に、教科書の変化で使えなくなる。

先生への導入に関して、若い人はできる。できない人はできる範囲でやっている。

音楽でも、ICTが効果的な場面と、そうでない場面（合唱、演奏など）がある。

ただ楽しんで終わり、ではなく、こういう音にすると流れる響きができるということが、分かることが大事。

音楽理論を体で覚えることが、つまり感性を磨くことになる。

不協和音とか、すっきりしないけど魅力的とか、変だけど良いみたいなのも分かると良い。

☆ICTを活用した音楽の授業をしているかに関しての話

ジャストスマイル→シンガーソングライターがある。しかし使ってない。

教科書をやるのに精いっぱいで、やる時間がないのが大きな要因

使うとすれば、適当に打ち込ませて、へーこうなるのかーってさせる。

児童が利用する全てのパソコンに入っている。

このような打ち込みソフトも、使っている学校はある。

雅楽のビデオを見せるとか、インターネットの動画を見せるとかはしたことがある。

いきなり譜面を使うのはダメ。篠笛とか、モノから入る。

子供が、聞いた音から、神社っぽいなどの体験を聞けた。

☆ICTでの音楽づくり教育をどう思うか？

興味を持たせるためには大切なこと。導入に効果的と思われる。ICTは切り込みに良い。

☆音楽の授業の重要性

今の子は、いろんな曲を知っているが、音楽の授業に結びつかない。

授業になるとシャットアウトしてしまうが、いろんなジャンルの曲に親しんでほしい。

音楽に親しんでいる子は、クラシックから攻めていくのが好き。JPOPみたいなのが好きな子はそっちから。

どちらでもない子は、全く興味がない。口ずさんだりもしない。

音楽に親しんでいる方が、解放的、自分を表現する力があることがある。

しかし、聞くのが好きな子もいる。聞き役としての力がある。

いろんな親しみ方を認めるのが大事。

音楽の評価は難しい。そもそも、どんな音楽が良いか？という定義がない。

☆子供にやる気を出させる工夫

自発的な学習の手立てには、どうしたら興味を持ってもらえるかといった、導入が大事。

効かせる前にモノを見せたりクイズを出したり、本題じゃないところから組み立てていく。

エンターテイメント性などが重要。

学年によって何を好むかなど、実態が違う。これをつかむのが大事

☆音楽の授業などについて

どんなことを感じたか書く。作文が上手な子の方が点が高い。

それを解決するのに、音楽づくりが大事かもしれない。個人の変化もよくわかる。

合唱とか、演奏にも効果：こういう風に歌えば、やさしくなる、等を分かってほしい。

子供は、こういう風にうたってごらん、と言って、まねをするのはうまい。

「あの子のようにやると良いよ」といった、子供を例にすることも効果的

☆MelOnを実演してみての感想

ドレミファソラシド書く

再生中全体が見えるように。どんなの作ったのか忘れているから。

必ず日本の音楽を扱うことになっているので、日本の楽器を使えるようにしたい。